

○議長（茅沼隆文）

続いて、日程第3 認定第1号 決算認定について（一般会計）、細部説明から、日程第7号 決算認定について（水道事業会計）まで、及び日程第10 議案第29号 平成28年度開成町水道事業会計未処分利益剰余金の処分について、の計8議題を、開成町議会会議規則第36条の規定に基づき、一括議題といたします。

はじめに、平成28年度決算に係る会計年度中の主要な施策の成果及び予算執行状況報告を町長に求めます。

町長。

○町長（府川裕一）

平成28年度決算に係る会計年度中の主要な施策の成果及び予算執行状況報告。

平成28年度各会計歳入歳出決算を議会の認定に付するにあたり、地方自治法第233条第5項の規定に基づき、この会計年度中の主要な施策の成果及び執行予算状況を報告いたします。

平成29年9月5日、開成町長、府川裕一。

平成28年度一般会計の決算は、歳入総額が55億9,116万4,000円、歳出総額が53億530万4,000円となり、歳入歳出差引額は2億8,586万円で、翌年度への繰越額5,864万2,000円を差し引いた実質収支は2億2,721万8,000円となりました。

前年度との比較では、歳入総額で3億8,580万8,000円の増となり、歳出総額では4億2,257万7,000円の増となっております。なお、本年度の実質収支から前年度の実質収支を引いた単年度収支、財政調整基金の積み立て、取りくずし額などを増減した実質単年度収支は6,264万7,000円の赤字となりました。

主な歳入項目では、町民税が12億1,358万5,000円、前年度9.8%の増で、個人町民税は人口増や景気の緩やかな回復に伴い増収となり、法人町民税では、大手企業の業績が良好であったことなどから大幅な増収となりました。固定資産税額は14億4,344万円で、家屋についてはみなみ地区での活発な住宅建設に伴い増収となるも、土地については軽減措置の適用により減収となり、ほぼ横ばいの前年度比0.5%の増となりました。町税全体では、28億915万2,000円、前年度比4.4%の増となりました。

その他の歳入項目では、地方消費税交付金は2億7,385万2,000円、前年度比9.5%の減となりました。

地方交付税は3億3,494万9,000円、前年度比4.2%の増となりました。これは臨時財政対策債への振替相当額が減となったことが、主な要因であります。

国庫支出金は、7億5,993万6,000円、前年度比33.8%の増、これはみなみ地区に新設された保育園整備の支援にも伴い、国の補助金を活用したことによるものであります。県支出金は、3億6,726万1,000円、前年度比0.1%の増となっております。寄附金は、1億786万7,000円、前年度比3万6,218.9%の増加、これはふるさと応援寄附金（いわゆるふるさと納税）を導入した

ことによるものであります。

歳出項目の主な増減内容を見ますと、性質別では物件費が8億8,790万4,000円、前年度比21.3%の増となりました。これはふるさと応援寄附金の寄附から返礼品の送付などにかかるポータルサイトへの業務委託料が新たに発生したことなどによるものであります。

扶助費は、10億7,752万5,000円、前年度比8.2%の増となりました。主な理由は自立支援給付費の増によるものであります。補助費等は、8億3,937万6,000円、前年度比13.9%の増です。これは前述の新設保育園整備の支援などによるものであります。

積立金は、3億3,338万5,000円、前年度比299.2%の増で、公共施設整備基金を積み増したことなどによるものであります。

普通建設事業費は、1億9,342万7,000円、前年度比43.9%の減です。これは前年度にグリーンリサイクルセンターの施設購入などがあったことによるものです。

以上のように、平成28年度は、法人町民税の増により自主財源が伸び、町民サービスの充実を図りつつ、将来を見据えた大規模事業への準備も整えることができました。

特別会計では、国民健康保険特別会計、下水道事業特別会計、介護保険事業特別会計、給食事業特別会計及び後期高齢者医療事業特別会計の五つの会計の歳入の決算総額は、39億6,671万1,000円となり、前年度比4.3%の増となりました。

歳出決算総額では、37億3,739万3,000円となり、前年度比5.0%の増となっております。個別には、国民健康保険特別会計が18億8,310万6,000円、前年度比6.9%の増、これは一般被保険者の療養給付費や高額療養費の増などによるものであります。

下水道事業特別会計は、5億7,283万8,000円、前年度比4.3%の減で、流域下水道事業維持管理費負担金の減などによるものであります。

介護保険事業特別会計は、10億1,611万6,000円、前年度比6.6%の増で、保健給付費などの増などによるものです。

後期高齢者医療事業特別会計は、1億7,888万5,000円、前年度比12.8%の増で、被保険者数の増に伴う、広域連合への納付金の増などによるものです。

一般会計に、これらの特別会計と企業会計である水道事業会計を加えた決算額の合計は、歳入決算総額98億6,734万6,000円で、前年度比5億7,117万6,000円、6.1%の増、歳出決算総額は94億796万6,000円で、前年度比6億1,278万2,000円で、7.0%の増となりました。

なお、一般会計における主要な財政運営指標では、経常収支比率が83.3%、前年度より1.0ポイント下がりました。これは町税が増になったことが主な要因であります。健全化判断比率関連の指標では、実質公債費比率は2.0ポイント下がって、8.2%、将来負担比率は11.6ポイント下がって、55.7%となり、引き続き

健全な財政状況が維持されております。

それでは、第五次開成町総合計画の八つの政策に沿って、平成28年度決算の概要を報告いたします。

町民主体の自治と協働を進める町。

町民ファーストの自治を進めるため、これまで以上に町民、事業者、団体など、多様な担い手との協働を意識した事業を展開いたしました。

広報紙をさらに魅力的で使いやすいものにするため、町民の皆さんから広報かいせいの紙面づくりへのアイデアをいただく場として、「広報わいわいカフェ」を開催いたしました。

コミュニティ施設の管理では、金井島公民館のフェンスや河原町公会堂屋根の塗装工事など、地域活動の拠点となる地域集会施設の補修を計画的に進めました。

未来を担う子どもたちを育むまち。

核家族化が進み、社会環境が変化する中で、子育てに対する悩みや不安を少しでも解消できるよう、開成駅東口の「ぷらっと・かいせい」内に、町内2カ所目となる子育て支援センターを開設いたしました。乳幼児とその保護者の、遊びを通じた交流だけではなく、栄養士や保健師などによる相談日を設けるなど、子育て環境の充実を図りました。

また、今後ますます高まる保育需要の増加に対応するため、新設保育園の開所に向けて施設整備費を支援し、待機児童の解消を図りました。

幼稚園で行っている3歳児とその保護者を対象とした「のびのび子育てルーム事業」では、3歳児の子ども教室「すくすくルーム」を週1回から週2回に拡充をし、幼児教育の充実を図りました。

幼稚園施設整備事業では、平成31年度からの3歳児教育の開始に向け、幼稚園の大規模改修に着手しました。新年度は、実施設計と並行して電気関係や外構など一部の工事を実施しました。

子どもたちが自由に思いのまま遊ぶことができる場所を提供するプレイパーク（冒険遊び場）事業は、中家村公園、金井島緑陰自由運動広場、屋敷下第1公園の3カ所・計4日間実施し、子どもたちとその保護者など300人を超える参加者でにぎわいました。

また、青少年健全育成の一環として、交流都市である北海道幕別町と児童間の交流事業を行い、子どもたちの親睦と両町の絆を深めました。

健康を育み町民がいきいきと暮らせるまち。

日本一健康な町づくりプロジェクトとして、「1日1回は血圧を測ろう」「+10（プラステン）～あと10分身体を動かすことからはじめよう～」「年に1度は健康診査・がん検診を受けよう」の3本柱の更なる推進・浸透に努めました。

地域の運動や食に関する健康ボランティアとの協働、協力によって地域住民の声を聴きながら事業を展開し、生活習慣病予防に関する医師の講演会や生涯現役でいるための運動教室、全自治会館への自動血圧計の設置による高血圧予防の環境整備事業な

どを行いました。

子どもから成人、高齢者までのライフステージに応じた食育を推進するため、職員に管理栄養士を採用いたしました。日本人の一日の野菜摂取量が目標に到達していないことから、摂取量の増加を推進するため、町飲食店組合と協力し、お店にポスターを掲示するほか、食育講座を開催し、食の重要性について啓発を行いました。

新たな取り組みとして開始した土曜学校「あじさい塾」では、地域の人材や企業、団体の協力をいただき、お茶の入れ方、たこ作りやかまぼこ作りなど、全15回の講座を開催し、学校の授業とはまた違った学習や体験を通して豊かな人間性の涵養に努めました。

スポーツの推進では、「かいせいスポ・レクフェスティバル」を開催しました。新たに導入したスポ・レクカップ争奪少年野球大会や熊本地震復興支援チャリティーパークゴルフ大会をはじめ様々な種目で、子どもから高齢者まですがすがしい汗を流し、スポーツの秋を満喫しました。

安全で安心して暮らせるまち。

近年増加している自然災害などに対し、「減災」に向けた地域防災力向上のため、「自助」「共助」「連携」をキーワードに防災訓練を実施いたしました。より実践的な訓練とするため、建物が使用できないことを想定し、災害対策本部を町民センター南側駐車場に設置をし、広域避難所開設訓練では、幼稚園・南部コミュニティセンターをモデル会場として、防災安全専門員が講師となり、牛島・宮台地区の自主防災会合同による避難所開設・運営訓練や倒壊家屋からの救出救助訓練を実施いたしました。

また、消防団装備の充実を図るため、小型動力ポンプ積載車の更新や耐切創性手袋などを購入いたしました。

防犯対策では、開成駅前公園に防犯カメラを設置し、LED防犯灯の増設を行いました。

交通安全対策では、開成町交通指導隊をはじめ、各自治会、幼稚園、小・中学校、松田警察署の協力のもとに、登校指導や交通安全教室、子ども自転車運転免許制度に取り組みました。

また、自転車の乗り方大会では、開成南小学校チームが全国大会に出場し、町としては過去最高の22位と健闘しました。

自然が豊かで環境に配慮するまち。

日本一きれいな町をめざし、清潔で美しいまちづくりのため、町民、自治会、事業者などと連携し実施した「かいせいクリーンデー」では、前年度より500人も多くの方に参加いただき、町をきれいにしました。

また、職員が毎月1回道路や公園など公共施設のパトロールと清掃活動を行う「開成町クリーン隊」も引き続き活動いたしました。

ごみの減量化と資源化においては、家庭における生ごみの減量化、資源化を図るためのエコな生ごみ処理器である「おしゅれdeキエーロ」「ベランダdeキエーロ」の普及促進に努めました。

町の望ましい環境像を実現するための取り組みや目標を定めた、環境基本計画を社会の変化などを踏まえ改定をいたしました。

都市の機能と景観が調和するまち。

安全で快適な町内道路ネットワークを維持するため、延沢地区の町道122号線や中之名地区の町道227号線の舗装補修工事を引き続き行うとともに、町道改良に向けた町道204号線の補償物件調査や町道218号線の測量を実施いたしました。

良好な市街地の形成及び都市計画道路駅前通り線の整備による都市機能の強化を図るため、駅前通り線未整備区間周辺の整備に向けた現況測量を実施いたしました。

また、松田町と開成町を結ぶ十文字橋の耐震化に向けた設計を行いました。河川協議に時間を要したことから、次年度も継続して実施をいたします。

南足柄市と連携して取り組んでいる「足柄産業集積ビレッジ構想」では、引き続き宮台北地区の事業化に向け、整備プログラムの検討や地権者との合意形成に取り組むをいたしました。

上水道は、本管未整備部の配水管布設工のほか、老朽化施設の改修と耐震化のため、高台第一浄水場のポンプ井更新工事や高台第二浄水場の塩素注入ポンプ及び制御盤更新工事を実施し、水道水の安定供給の確保を図りました。

また、イベント時には町の水道水と市販の天然水による利き水を実施し、町の水道水の安全性やおいしさをPRいたしました。

下水道では、河原町、中之名、牛島地区の管渠の布設工事を実施しました。

個性豊かな産業と文化を育成するまち。

多面的な機能を有する農地を次世代に引き継ぐため、地域共同による農用地等、地域資源を保全する組織に対する支援など農業振興・農地保全に取り組むをいたしました。また、人口減少や高齢化などに対応した地域の活力を創出するため、あしがり郷瀬戸屋敷を拠点に、民間活力を積極的に導入しつつ北部地域活性化に向けた取組を本格的に開始しました。

開成町あじさいまつりをはじめとする各種イベントにおいては、広報活動を積極的に行うとともに、町一丸となっておもてなしの心でお客様をお迎えいたしました。

開成町あじさいまつりでは、前年度に引き続きブランド力、発信力のあるポスターやちらしを作成し、キャッチフレーズを「カタツムリになる一日。」とし、イベントではあじさいちゃんお誕生日会なども行い多くの来場者で賑わいました。

開成町阿波おどりでは、踊り手と鳴り物、観客が一つになり総勢24連、1万1,000人が阿波おどりの熱気に包まれ、1年でいちばん熱い夜となりました。

効率的な自治体経営を進めるまち。

行政システムの効率化においては、町民ニーズが多様化・高度化する中で、的確に対応する職員を育成するため、各種庁内研修をはじめ、市町村研修センターなどの庁外研修を受講することで職員の能力の向上を図りました。また、新庁舎建設に向け、開成町に適したワンストップサービスなど、執務環境整備の提供方法についての調査研究を進めました。

行政・防災の拠点である新庁舎の建設については、基本設計が完了し竣工イメージなどをもとにまちづくり町民集会で丁寧な説明をするとともに、次のステージである実施設計に着手をいたしました。また、整備に要する資金を基金に積み立てました。

あしがり郷瀬戸屋敷については、指定管理者制度を導入し、事業者の選定を行い、円滑に体制が移行できるよう準備を進めました。

以上、平成28年度実施事業のうち主なものを報告いたしました。

平成28年度は、国において地方創生の本格展開の年として位置付けられており、開成町においても「まち・ひと・しごと創生」に向けて、地方創生加速化交付金や地方創生推進交付金を活用し、魅力ある観光・交流拠点づくりや健康長寿のまちづくりを推進いたしました。

魅力ある観光・交流拠点づくりを進めるため、北部地域活性化の拠点と位置付けているあしがり郷瀬戸屋敷の案内所などのリノベーションの設計を行いました。

また、「あしがら」エリアの地域イメージの向上・発信を行うため、足柄上地区1市5町の広域連携事業として、あしがらローカルブランディング推進事業を展開し、「千年の湧水あしがら水源」をブランド・コンセプトに、小田急トレインビジョンでのPR動画の放映やポスター掲示などを実施いたしました。

健康長寿のまちづくりの一環として、神奈川県や県西地域2市8町で連携し、「未病を改善する」をテーマにした「県西地域活性化プロジェクト」を推進し、当町の地域特性を生かした取組みとしてサイクルチャレンジinかいせいの開催、各市町共通の取組みとして保健センターへの未病見える化コーナーの開設準備などを行いました。

地方創生は、若者が生まれ育った地域で職を得て豊かに暮らすこと、子育て世代の妊娠・出産の希望を叶えることにより、全国的な人口減少に歯止めをかけることを狙いとしています。当町では、人口の増加傾向が続いていますが、今後も際限なく増加し続ける訳ではありません。現状に甘んじることなく、常に将来を見据え、一歩先を考えたまちづくりを進めていきます。

町議会の皆様には、今後とも御指導、御支援をよろしくお願い申し上げます。

最後に、一般会計、特別会計並びに財政状況に関する資料を添付いたしましたので、これらをもって予算執行状況の報告といたします。

○議長（茅沼隆文）

本日はここまでといたします。明日、8日は一般会計から順次細部説明を行います。本日はこれにて散会いたします。

お疲れさまでした。

午後 11時35分 散会